



新規参入

園芸

富山県富山市

友田 拓造 さん (大阪府出身)

### 就農のきっかけ

- 前職では多忙な生活をされていたようですが、そこから農業にはどのように繋がったのでしょうか。

大学卒業後、食品会社で自販機設置の法人営業をしていたのですが、忙しく働く中で、仕事内容が自分に合っていないと感じるようになりました。自分が好きな物だったら自信をもっておすすめできるのになあ、と。そんななか、次に仕事にするなら何がよいのか考えていたときに、映画「おおかみこどもの雨と雪」を観て頭の片隅に残っていた農村での暮らしや、自然とうまく付き合っていく生活が思い浮かびました。それまで農業を仕事にしようと思ったことはなかったですし、担い手は減っているけど誰かがやるだろう、くらいの考えしかなく他人事でした。また、いわゆる普通に高校を出て、大学に行って、サラリーマンになって、定年まで勤め上げるという道を考えていたましたが、そうではない道もあるのかなと思い始めました。

そして、初めて自分がやりたい仕事というのを考えた結果、農業が良いのではないかとこのところに行きつきました。若い人材が求められているし、自分の経歴や性格から活躍できそうだなと思ったんです。

- 御家族には相談されていたのでしょうか。

妻には、結婚前から「農業界への転職」の可能性はあるという話はしていました。営業の仕事は出張が多く、子どもが生まれてからも家族と過ごす時間がとても少なかったんです。私にはそれがすごくストレスでした。

今後も単身赴任の可能性があるなか、職場の上司から、『家族なんて全然会っていないよ』とか、『「この人だれ？」と、子どもに言われたよ』という体験談を聞いたのですが、私にはそれが全然良いと思いませんでした。私は家族が好きですし、子どもの成長を近くで見たいという想いがあったので、家族の近くで、家族の幸せを維持しながら営農していくというところを方向性として考えて、就農場所や方法を模索しました。

## 就農前後の行動

### 就農前のこと

- 相談から説得に変わったのはどのタイミングだったのでしょうか。

就農場所を探し始めたのは最初の勤務地の時で、説得に変わったのは・・・次の転職の時だったと思います。ただ、「一緒にやろう」とは言っていません。妻からは「もし農業をやるなら、暮らしやすいところが良い」と言われていたこともあって、大学時代を過ごした北海道か、妻の故郷である富山県に近い石川県周辺をメインに探していました。

農業の知識がなかったので、学校に行こうと思ったのもこのタイミングでした。石川県だと金沢市に農業大学校があったので、そこに照準を絞っていました。それで、四国にいた時に、金沢市の農業法人をいくつか回るツアーに参加し、市内での就農を検討することにしました。ただ、カリキュラムが2年制であり、その期間収入が減ってしまううえに、スタートが遅れてしまうのは厳しいと思いました。なるべく早く経営を開始して、実践的に失敗もしながら学びたいと思っていたところ、富山県にあった「とやま農業未来カレッジ」（以下「カレッジ」）が、研修期間1年という希望の条件でした。

妻の実家も富山市内にあるので近いですし、景色や食べ物も自分に合っていました。富山は野菜を作っている人が少ない分、逆に野菜を専門で勉強して頑張ればチャンスはあると思いました。結果、富山県で研修を受けて就農する道を選びました。



## 研修修了後、雇用就農へ

---

- 最初から独立・自営を考えていたのでしょうか。

やりたい農業はありましたが、独立にこだわっているわけではありませんでした。自分の想いと合致する農業法人や経営体があれば、そこに入って一緒に（自分もアイデアを出しながらやりたいことが）できれば良い、という感じでした。

また、カレッジで研修を受けるなかで、いきなり独立・自営就農はさすがに厳しいかなと思い、まずは基盤を固めるために農業法人に勤める方向で進路を探しました。そんななか、水稻の他に野菜も作り、多品目にチャレンジして技術力もある農業法人からオファーがあったので、そこに就農することにしました。

当時は富山市から1時間ほどかけて通っており、なかなか大変でした。その法人には丸三年在籍して、社長と共同でやっていくという道もありましたが、自分にしかできないことをやろうと思い、独立を決めました。独立を意識したのは、働き始めて2年目くらいだったと記憶しています。

- 独立を意識してからは、どのように進めていったのでしょうか。

市や県の関係者には、再来年には独立したいという意向を伝えました。カレッジ時代から関わりのある方もいたので、いろいろ相談に乗ってもらいました。白ねぎをやりたいと希望していたところ、行政機関の方から候補地の提案がありました。現地の出荷組合の方に圃場や作業場を紹介してもらい、具体的なイメージが湧きました。その後も、行政機関の方に就農までの手続きを諸々進めていただき、スムーズに歩むことが出来ました。そういうサポートがあったので、就農しやすかったです。

- 就農希望地は複数あったのでしょうか。

自宅から近い圃場で営農しようと考えていましたが、行政機関から提案のあった地区はねぎに適した土地ですし、出荷組合があるのですぐ出荷できますし、環境も整っているので、面積拡大を考えているならこちらでやった方が良いと思いました。ただ、最初からねぎだけで通年はできないという話のなかで、雇用就農中から地区の農業者の方に話を聞いたり、草刈りや農薬散布の活動に参加しながら、農地などの情報も集めていきました。就農前に本気で情報収集したのが良かったと思います。地域に馴染むことが出来たし、地域からの信頼を得ることにもつながったかなと思います。結果的に、地区の使っていないハウスを貸していただけることになりました。

- 地道な活動の成果ですね。

自宅が近くて、普段から話もしていて、農作業も手伝って、将来この地域を担っていくという気持ちがちゃんとあるということを伝えて、お互いに意思疎通ができているからこそ話が進んでいったのかなと思います。

## 独立・自営就農後のこと

- 1年目のことを教えてください。

1年目は基本的に一人で営農していました。ただ、白ねぎの収穫と出荷の時だけ、短期で3人雇用(作業委託)して4人体制で作業に当たりました。加えて、ハウスの水菜を収穫しながら、露地野菜も複数やっていました。なすをやりたかったのですが、なすと水菜と白ねぎをメインで栽培していましたが、地区の特産品であるかぶにも手を出したりして、なんだかんだ品目数が増えていきました。

- インスタグラムには様々な野菜があり、中には変わった品種も見受けられました。

当時はいろいろやっていたね。今は自分の経営に合うもの、効率がよくて利益が出るものに絞っている段階です。



- 経営のスタイルが変わったことには、何か理由があるのでしょうか。

結局、1年目は回らなかったんです。総じて取り残し(取り遅れ)があって、廃棄も増えてしまう始末で。これではダメだと思い、2年目に入る前に妻に参画をお願いし、青年等就農計画や農業次世代人材投資事業を夫婦型に変更して、家族経営を始めました。2人体制になったことで、随分と楽になりました。1人ではできないと認識した1年目があったこそですが……。

- 2年目以降の経営について教えてください。

2年目以降は夫婦をメインに、ねぎの収穫・出荷時は5人を雇用して、自分たちがいなくても回るようにしました。

今年(3年目)は、1日当たりの出荷数は変えないので人数は変わりませんが、1人当たりの雇用期間を長くすることを考えています。さらに来年以降は、通年での雇用を目指しており、だんだん人を増やして、同時に売上も増えていくように、青年等就農計画に沿った形で進めています。

- 就農場所選びのポイントは、他にもありますか。

現在の就農場所を選んだ理由は、街が近くて販売しやすいという利点があったからです。自宅近くの圃場から、車で10分程度の場所に富山市公設地方卸売市場があるので、出荷がとても楽です。

地の利を生かして、市場や街中の直販所での販売をメインに据えています。市場に販売すれば廃棄ロスも無くなりまし、安定して高品質な物を出していければ価格もある程度保証してくれて、数量が増えれば大型スーパーとの契約にもつなげてくれるので、自分で営業しなくても、販路の拡大が望めます。

## 就農希望者へのメッセージ

- 就農希望者へのメッセージやアドバイスをお願いします。

その人の性格もあると思うので、一概には言えませんが、事前の調査を慎重にするべきだと思います。ネットで得られる情報は限られているので、実際に人に会ったり、現地に赴いたりすることが重要です。

まずは場所を決めて、そこでどういう農業をやっていくかを考えることから始めるのが良いと思います。いきなり家を買って移住を始めてしまうと、そこで人間関係に失敗したり、様々なトラブルがあつたりした時に動けなくなってしまう。思い切って決断しないといけませんが、その前に十分に調査することが重要だと思います。

- 当たりをつけて、徐々に絞り、そこから具体的に展開していくということですね。熱い気持ちに加えて、慎重に計画することも大事だということが分かりました。

また、周りに流されずに、自分の本当にやりたい農業をちゃんとやることも大事です。誰かに言われたからやっているということでは、困ったことがあつたときやうまくいかないことがあつたときに、落ち込んだり諦めたりしてしまいます。

私は、やりたいことをやっているの、時間的にできないことや必要ないことはやらないことにしています。今すぐ役に立たなくても、将来的に役に立つかなと思うことしかやっていないので、楽しくできています。やる気があって頑張っ、周りと良好な関係を築いて楽しければ、農業はうまくいくんじゃないかなと思います。何がやりたいかわからないけど、なんとなく農業がやりたい、というレベルの考えでは続かないと思います。『農業で、何がしたいか』というのが大事だと思います。

私は、農業で家族を幸せにしたいのと、若い農業者と一緒に農業を盛り上げていきたい、という二軸が基本になっています。究極を言うと、自分が手を動かさなくても、作目が変わったとしても、この目的が達成できれば良いと思っています。例えば、自分が雇用して、農業に携わる若者が増えて、地域貢献に繋がるという方法でも良い訳です。

- 今日の取材も、若い農業者と一緒に農業を盛り上げたい、という目的のために受けていただいたと理解しています。

そうですね。いろんな方に農業を知ってもらいたい、という想いもあります。

